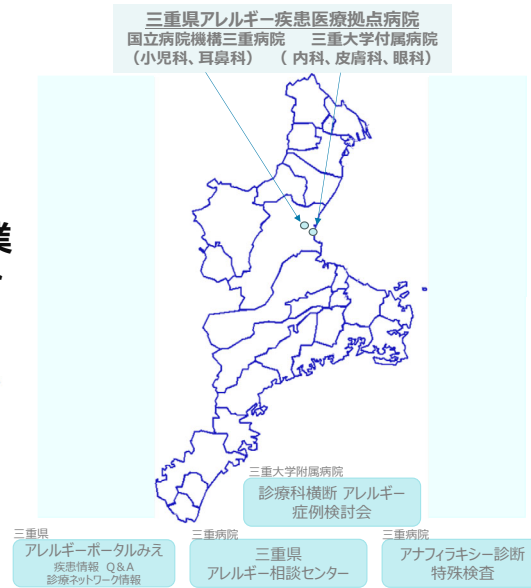


令和6年度 アレルギー疾患医療全国拠点病院連絡会議

令和5年度 令和6年度
**免疫アレルギー疾患患者に係る
 治療と仕事の両立支援モデル事業
 : 国立病院機構三重病院の取り組み**



国立病院機構三重病院
 発表者: 藤澤隆夫



国立病院機構三重病院



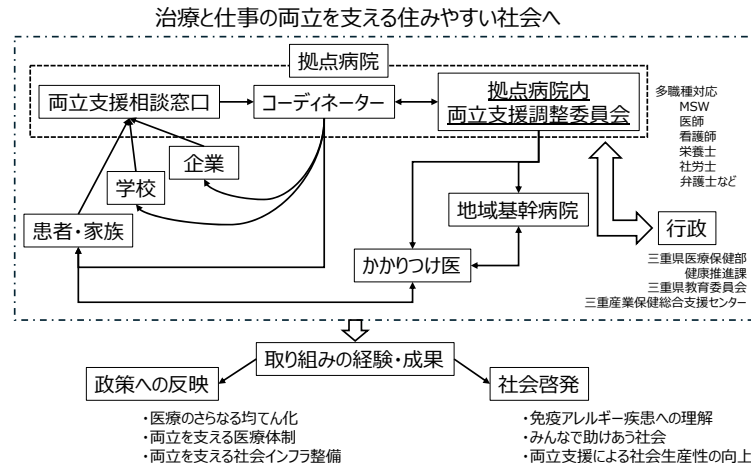
背景

- アレルギー疾患対策の推進に関わる基本的な指針（平成29年）
 「国はアレルギー疾患を有する者が適切なアレルギー疾患医療を受けながら就労を維持できるよう環境の整備等に関する施策を各事業主団体に対して周知をはかること」
- 令和2年度厚生労働科学研究「アレルギー疾患の患者および養育者の就労・就学支援を推進するための研究」
 「アレルギー疾患や関節リウマチを持つ患者は疾患による労働生産性低下や就労・就学における困難など、様々な問題を抱えているにもかかわらず、その支援策は必ずしも十分でない」

目的

- 免疫アレルギー疾患を有する患者が適切な治療を受けながら、仕事や学業を続けることができるよう、両立支援の取り組みを行う
- これまでも、個々の患者において、治療と仕事の両立に関する相談を受け、それぞれ対応を行ってきたが、本事業を通して、体制を整備して系統的に取り組む。

目指す両立支援の体制



両立支援調整委員会（月1回開催）

・構成員

- ・アレルギー専門医（2名→3名）、リウマチ専門医
- ・外来看護師長、看護副師長（PAE）
- ・管理栄養士、理学療法士、作業療法士
- ・特定社会保険労務士（外部委員）
（社会福祉士、精神保健福祉士資格も有する）
- ・企画課長

・用務内容

- ・相談事例について両立支援プランを策定、実施
- ・職場への働きかけ
- ・実態調査（受診患者＋全国患者会へ協力依頼）
- ・新たな支援の仕組みの検討→両立支援アプリの開発

相談事例1

- ・48歳男性 重症喘息

- ・職業：製造業(派遣社員) 既婚（こども1人）

・経過：

小児期から重症喘息で入退院を繰り返してきた。高校は病院に隣接する特別支援学校を卒業。はじめは学校のサポートで、喘息のことを伝えて建設業に19歳で就職、3年程勤務した。しかし、**土埃などで喘息は悪化**、給料も良くないため。20代前半で、知人に「他のところはもう少し給料いいぞ」と言われ、土木作業に転職。給料は少しだけ上がり大型ユンボの免許は取ったが、さらに喘息が悪化して2年程でやめた。

20代後半、知人にいい仕事があると金融業を紹介された。借金を取り立てる仕事で、やめたくてもやめることができない職場環境で、8年程働いたが、かなりしんどかった。

職場は喫煙が当たり前で、**自らも喫煙、喘息は悪化した**。

喘息悪化で、入院となったのを機に、居場所をくらしなんとか脱出。**住民票を移すことができず、その時の国保・国民年金の滞納分が今も尾を引いている**。

30代で結婚。アルバイト雑誌をみて、パチンコ店のアルバイトを始める。国保ではなく社会保険になりたくて正社員になった。1年程たったころ、勤務中にごみ出しをした際に蜂に刺され、労災を申請したところ店長に文句を言われ、それを機に退職した。

その後、また**仕事を探すが、喘息であることを面接で伝えると、落とされるため伝えないことにした**。

・その後、転職を続けた。最近派遣会社に登録し、最初は、「簡単な組み立て」と聞き、行ってみたらパソコンなどの保全の仕事で、**知識もないのに到底できるものではなく4か月ほどでやめた**。

今は別の派遣の仕事で、「糸を巻き取る仕事」ときいたが、実際は**ガラス繊維の工場で熱さやほこりなど過酷な職場環境、手を中心にアトピー性皮膚炎が悪化、喘息発作も持続したが、そのことを言うと解雇されるため、職場の騒音の中で、喘鳴を隠していた**。

相談事例1

- ・48歳男性 重症喘息

・問題点：

- ・本人にあった仕事の選択ができない（小児期からの重症喘息で教育機会も逸している）
- ・症状を職場に相談できない。
- ・低収入かつ借金返済の支出が大きいなど、経済的な問題のため、適切な治療(生物学的製剤)が受けられない。

・支援プラン：

- ・職場への働きかけは、「病気がわかると解雇されるので」本人が拒否
- ・現状の制度を利用して、生物学的製剤治療を受けられるよう助言したが、困難であった。
- ・治療が必要な患者が、適切に治療が受けられるように**派遣会社もふくめて企業側に助成金が入る仕組みが必要**。
- ・両立支援助成金などの**対象拡大**などの制度改革を要する。

相談事例2

- ・ 28歳女性 多種食物アレルギー、好酸球性胃腸炎、アトピー性皮膚炎、気管支喘息
- ・ 職業：医療事務(派遣社員) 独身（父、父のパートナーとの3人暮らし）
- ・ 経過：
朝食と昼食をとると、工作中に腹痛、下痢が起こる不安があり、仕事がある日は食事は夜の1回のみ。体調が悪くなり休むことに職場の理解がない。自分でもうまく説明できない。かかりつけ医は予約がなければ午前11時までに受付が必要なため、体調が悪くなった日中に受診することが難しく、自分で食事を食べないなどして気を付けるしかないと諦めている。
- ・ 支援プラン（管理栄養士が対応）：
 - ・ 本人の悩み、つらさを聞き取る。
 - ・ 症状を起こさないような食事内容を説明、少しずつでも食べるように指導。→少しずつ改善した。
 - ・ 職場の上司に対して、医師から病状説明を行うことを提案→本人が伝えることができず、実現しなかった。

相談事例2

- ・ 28歳女性 多種食物アレルギー、アトピー性皮膚炎、気管支喘息
- ・ 問題点：
 - ・ 本人にあった仕事の選択ができない（小児期からの重症喘息で教育機会も逸している）
 - ・ 症状を職場に相談できない。
 - ・ 低収入かつ借金返済の支出が大きいなど、経済的な問題のため、適切な治療(生物学的製剤)が受けられない。
- ・ 支援プラン：
 - ・ 職場への働きかけは、「病気がわかると解雇されるので」本人が拒否
 - ・ 現状の制度を利用して、生物学的製剤治療を受けられるよう助言したが、困難であった。
 - ・ 治療が必要な患者が、適切に治療が受けられるように派遣会社もふくめて企業側に助成金が入る仕組みが必要。
 - ・ 両立支援助成金などの対象拡大などの制度改革を要する。

実態調査1

- 【目的】
- ・ 免疫アレルギー疾患患者（およびその家族が）治療と仕事の両立をするに当たり、どのような問題に直面しているのかを明らかにすること
- 【対象】
- ・ 国立病院機構三重病院に通院中のアレルギー疾患患者（ぜん息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギーなど）および関節リウマチ患者。高校生以上は本人、中学生以下は保護者を対象とした。
- 【方法】
- ・ 治療と仕事の両立に係る問題について、ウェブアンケートを実施した。
 - ・ 疾患名
 - ・ 仕事内容(将来、つきたい仕事も含む)
 - ・ 治療と仕事を両立させるために、困っていること、不安なこと、要望

実態調査2

【対象】

- ・ 患者会のご協力をいただき、全国の高校生以上の患者を対象とした。

【方法】

- ・ ウェブアンケート 以下の質問に自由入力を依頼（100文字以上）

回答をテキストマイニング

Q1：どんなアレルギー疾患がありますか。

Q2：選んだ進学先、就職先はどこなところですか。

Q3：高校に進学するときに、アレルギー疾患があることで、何か影響を与えたものはありますか。

Q4：実際に高校に進学してみて、アレルギー疾患があることで、負担になったこと、配慮してもらって嬉しかったことなどはどんなことですか。

Q5：専門学校・大学に進学するときに、アレルギー疾患があることで、何か影響を与えたものはありますか？

Q6：実際に専門学校・大学に進学してみて、アレルギー疾患があることで、負担になったこと、配慮してもらって嬉しかったことはどんなことですか。

Q7：就職する際に、アレルギー疾患があることで、悩んだり、職業選択に影響を与えたものはどんなことですか。

Q8：実際に就職してみて、アレルギー疾患があることで、負担になったこと、配慮してもらって嬉しかったことはどんなことですか。

Q9：後輩へのメッセージをお願いします。

第73回日本アレルギー学会発表(一部抜粋)

アレルギー疾患患者の治療と仕事の両立支援 :モデル事業でみえた実態と課題

松浦有里¹⁾³⁾ 高村純子²⁾ 長尾みづほ¹⁾ 藤澤隆夫¹⁾

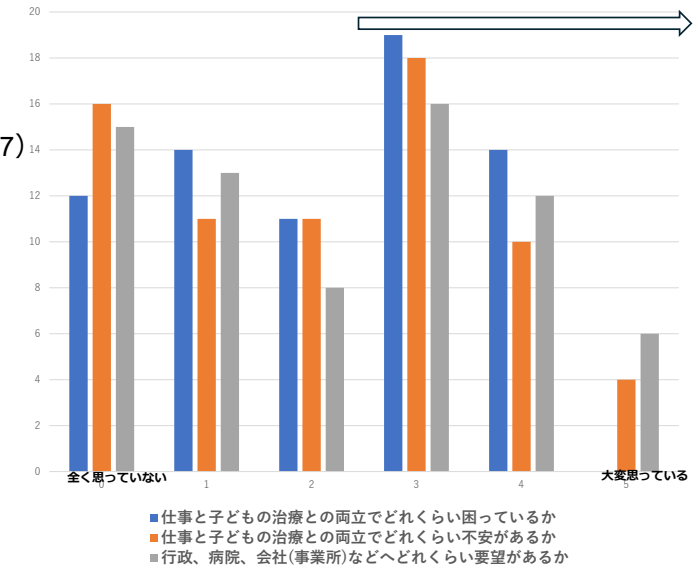
- 1) 国立病院機構三重病院アレルギーセンター
- 2) 同医療福祉相談室
- 3) 鈴鹿中央総合病院小児科

実態調査1

保護者

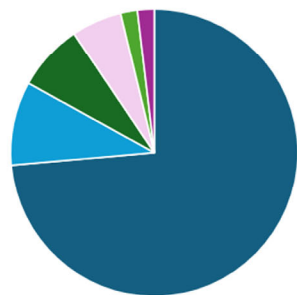
回答: 70名 (母63, 父7)

疾患名	
食物アレルギー	28
アトピー性皮膚炎	21
気管支喘息	13
リウマチ・膠原病	5
その他	3
合計	70

複数以上の合併がある場合は
最も大変な疾患

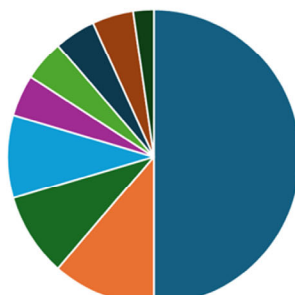
実態調査1

困っていること



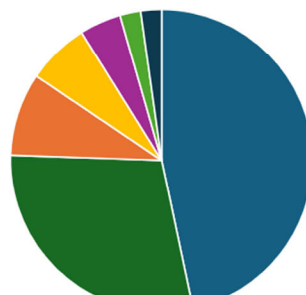
■ 時間的問題 ■ 症状
■ 治療 ■ アクセス
■ 職場の理解 ■ その他

不安なこと



■ 時間的問題 ■ 経済的問題 ■ 治療・管理
■ 症状 ■ その他 ■ 職場の理解
■ 予後 ■ 両立 ■ サポート

要望

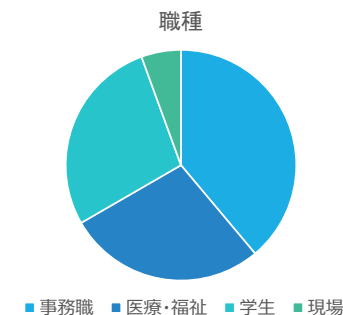


■ 就業環境・制度
■ 病院の治療システム
■ 医療費
■ 医療の供給体制
■ 病児養育者の負担軽減
■ 学校のアレルギー児対応
■ 病児養育者へのサポート

実態調査1

本人

回答: 18名



■ 事務職 ■ 医療・福祉 ■ 学生 ■ 現場

疾患名	
アトピー性皮膚炎	11
食物アレルギー	3
喘息	2
リウマチ・膠原病	1
アレルギー性鼻炎	1
合計	18

複数以上の合併がある場合は
最も大変な疾患

事務職

営業事務
会社員
会社員(ソフトウェア開発)
公務員
設計・開発
団体職員

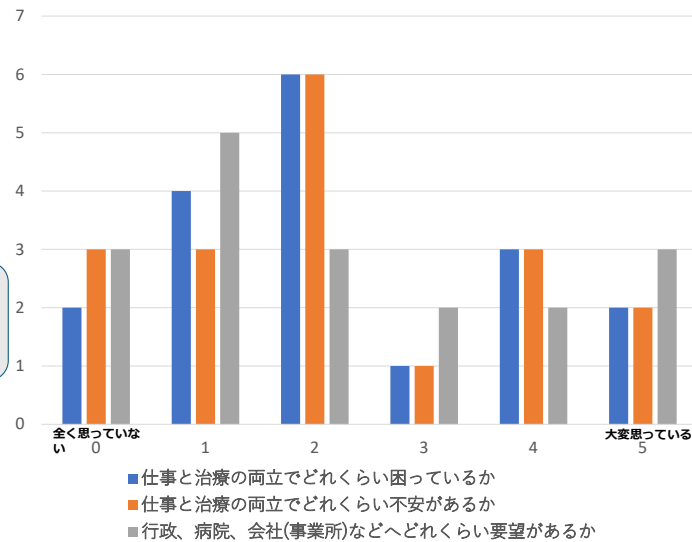
医療・福祉職

ケアマネジャー
看護師
福祉関係
保育士

実態調査1

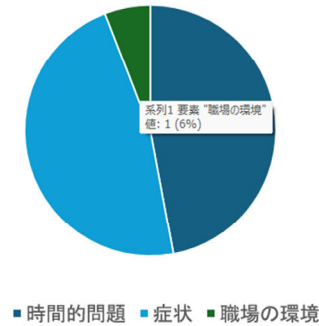
本人

3以上
困っていることがある：33%
不安なことがある：33%
要望がある：39%

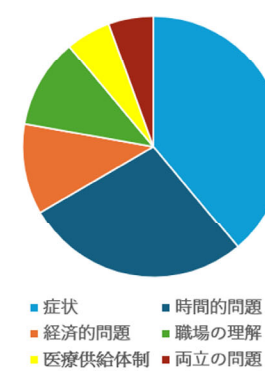


実態調査1

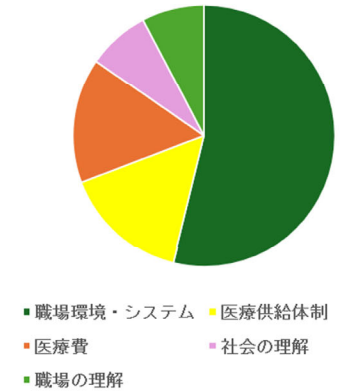
困っていること



不安なこと



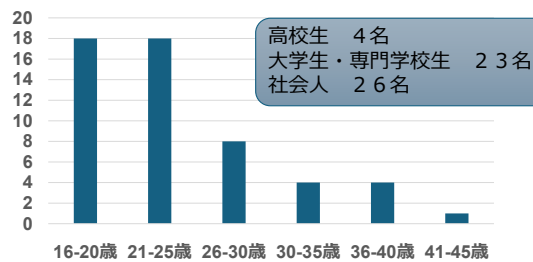
要望



実態調査2

回答数 53名 (男性：17名 女性：36名)

年齢分布

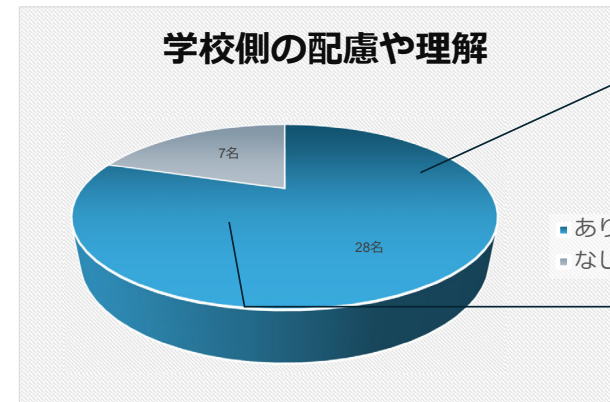


主なアレルギー疾患

食物アレルギー	38名
アトピー性皮膚炎	9名
気管支喘息	4名
アレルギー性鼻炎	2名

複数以上の合併がある場合は最も大変な疾患

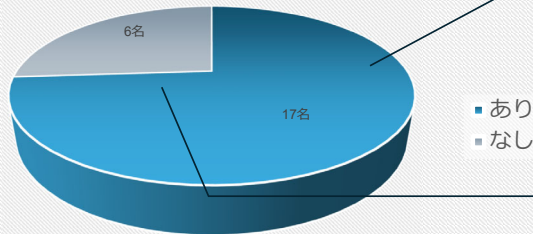
学校側の配慮や理解



・調理実習でのメニューや調理方法の選択
・修学旅行での食事内容
・皮膚が痒くなったときの対応
・エビペンや軟膏塗布など治療についての対応

・症状が出たときの対応
・教師からの心無い言葉

同級生や友人の配慮や理解

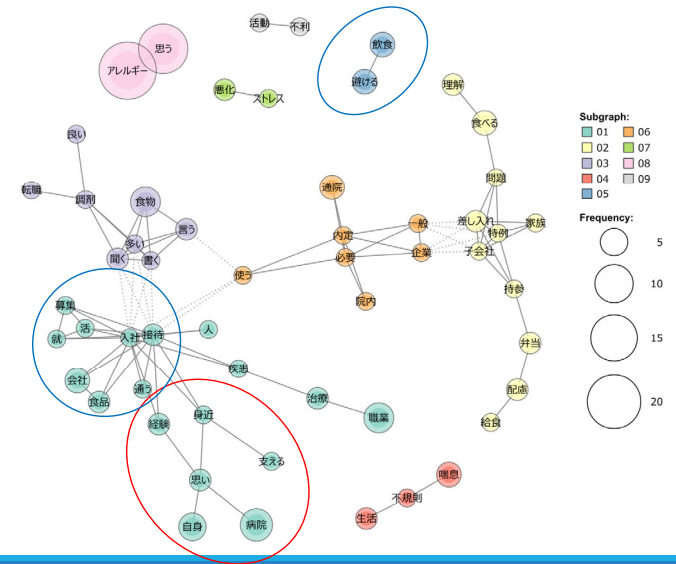


- ・食材についての確認や気遣い
- ・体調への心配や配慮

- ・同級生からの心無い言葉や態度

就職時

- ・医療系の就職先
- ・飲食系や接待がある職業は避けた



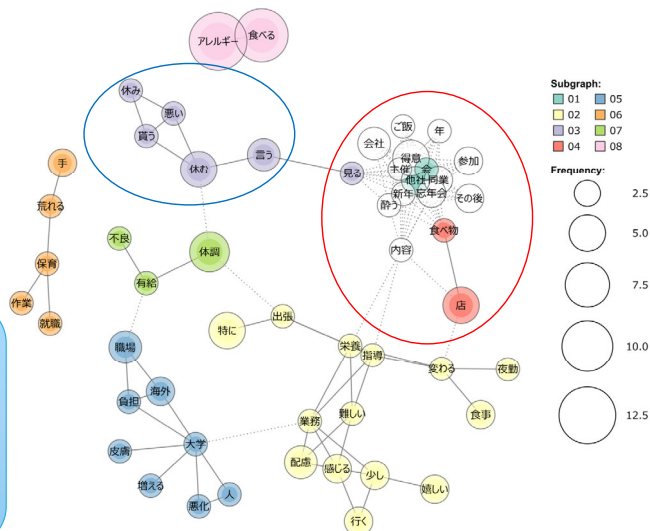
就職後

<うれしかったこと>

- ・同僚からの理解や配慮 (食事会のときに食べられるメニューの店を選んできた など)
- ・病院受診での休み取得

<負担になったこと>

- ・接待や飲み会での食べられるものが制限される。



結語

アレルギー疾患患者と家族が治療と仕事や勉学の両立においてどのような影響があるかを調査した。

困っていることの多くは治療や通院における時間的問題、学校や職場など周囲の理解や配慮の問題であった。

特に高校在学中の学校側や周囲の配慮が得られなかったという問題では、学校側の疾患理解が十分でなかったことが原因と考えられる。医療機関側から、学校への適切な情報提供をしていくことが必要である。

今回の調査対象は困難な時期をある程度乗り越えた方が多く、現状で困っている方の思いは十分に把握できていない。これらの「声なき声」をどう可視化し、サポートするか、引き続き検討が必要である。

両立支援アプリの開発

- ・相談窓口（院内および電話相談）は時間的、物理的制限のため、すべてのニーズへの対応が困難
- ・また、若年者にとっては、相談窓口へのアクセスのハードルが高い可能性がある。
- ・スマホなどで気軽にアクセスできる「両立支援アプリ」であれば、ニーズを拾い上げ、適切な支援に繋げることができる。
 - ・相談事を入力すると回答を得られる機能
 - ・これまでの相談事例のデータを整理して、想定される質問に対する回答をアプリ内におき、これが出力できるアルゴリズムを装填する。
 - ・アプリで回答できない場合は電話・メール相談窓口につながる仕組みとする。また、厚生労働省の「アレルギーポータル」ともリンクしてアレルギー疾患患者へ情報提供も行うシステムとする。

わたしの選択

免疫アレルギー疾患を
もちながら歩む人生

令和5年度
免疫アレルギー疾患患者に係る治療と仕事の両立支援モデル事業
国立病院機構 三重病院

ありがとうございます
ございました

ご協力いただいた患者会の皆様

NPO 法人 アレルギーを考える母の会
アラジーボット
大阪茨山食物アレルギー・アトピーサークル「Smile・Smile」
アレルギー支援ネットワーク
アレルギーっ子の会ほかほか

奥部 まり子 様
栗山 真理子 様
田野 成美 様
中西 里映子 様
吉原 美江 様

アレルギーの治療のため休職する必要があります。だれに相談すれば良いでしょうか

戻る < 1 2 3 4

Q：アレルギー疾患のために休職が必要な場合、どのような手続きをすればよいですか？

A：休職が必要な場合、まずは主治医からの診断書を取得し、職場の人事担当者に提出します。その後、産業医や保健師と相談し、復職に向けた計画を立てることが重要です。具体的には、休職期間中の治療計画や、復職後の業務内容の調整、職場環境の改善などが含まれます。休職中も定期的に職場と連絡を取り、復職時の環境整備について話し合うことが推奨されます。

Q：免疫アレルギーの治療を受けながら働く際に、職場での配慮が不足していると感じた場合、どのように対処すれば良いですか？

A：職場での配慮が不足していると感じた場合、まずは上司や人事担当者に相談し、具体的な配慮の必要性を伝えることが重要です。治療と仕事の両立を支援するための制度や柔軟な勤務形態があるか確認し、必要に応じて産業医や産業保健スタッフに相談してみましょう。彼らは職場環境の改善や適切な配慮の実施をサポートする役割を担っています。また、職場内での理解を深めるために、治療と仕事の両立に関する情報を共有することも有効です。

Q：免疫アレルギーの治療を受けながら働く際に、職場でどのような配慮を求めることができますか？

A：免疫アレルギーの治療を受けながら働く際に、職場で求めることができる配慮として、以下の点が挙げられます。まず、体調や治療の状況に応じた柔軟な勤務形態の導入が重要です。例えば、時差出勤や在宅勤務の選択肢を提供することが考えられます。また、治療や通院のための休暇制度の整備も必要です。さらに、職場内での制度が利用しやすい風土の醸成や、働く人に配慮した診療時間の設定も求めることができます。これらの配慮を通じて、治療と仕事の両立を支援する環境を整えることが大切です。職場の産業医や人事担当者と相談し、具体的な配慮を求めることをお勧めします。

アレルギーの治療のため休職する必要があります。だれに相談すれば良いでしょうか

戻る < 1 2 3 4 >

Q：免疫アレルギー患者が治療を受けながら働く際に、職場での配慮が不足していると感じた場合、どのように対処すれば良いですか？

A：免疫アレルギー患者として治療を受けながら働く際に職場での配慮が不足していると感じた場合、まずは職場の上司や人事担当者に相談し、具体的な配慮を求めることが重要です。例えば、柔軟な勤務時間の設定や治療・通院のための休暇制度の利用を提案することが考えられます。また、産業医や職場の健康管理担当者に相談し、職場環境の改善を図ることも有効です。さらに、必要に応じて労働組合や外部の専門機関に相談し、適切なサポートを受けることも検討してください。職場での配慮が不十分な場合でも、適切な手続きを踏むことで、治療と仕事の両立を支援する体制を整えることが可…

Q：免疫アレルギーの治療中に職場での配置転換が必要な場合、どのように対応すれば良いですか？

A：免疫アレルギーの治療中に職場での配置転換が必要な場合、まずは職場の人事担当者や上司に相談し、治療と仕事の両立を支援するための制度や柔軟な勤務形態について確認することが重要です。厚生労働省のガイドラインによれば、治療と職業生活の両立を支援するためには、柔軟な勤務制度や治療・通院目的の休暇制度の整備が求められています。また、産業医や職場の保健スタッフと連携し、健康状態に応じた適切な配置転換を検討することも有効です。職場内での理解と協力を得るために、医療機関からの診断書や治療計画書を提出し、具体的な配慮が必要な点を明確に伝えることも大…

Q：免疫アレルギーの治療を受けながら働く際に、職場での理解を得るためにはどうすれば良いですか？

A：免疫アレルギーの治療を受けながら働く際に職場での理解を得るためには、以下のポイントを考慮すると良いでしょう。まず、職場の上司や同僚に対して、あなたの健康状態や治療の必要性について適切に説明することが重要です。これにより、職場での配慮やサポートを得やすくなります。また、産業医や産業保健スタッフと連携し、職場環境の調整や柔軟な勤務形態の導入を検討することも有効です。さらに、治療と仕事の両立を支援する制度や休暇制度の利用について、職場の人事労務担当者と相談し、利用しやすい環境を整えることが大切です。これらの取り組みを通じて、職場での理解を…

